

触れて知って C57の動輪

自転車。ペダルで回転

愛知、岐阜両県にまたがる旧国鉄中央線の廃線跡に、蒸気機関車が走っていた往時をしのばせるC57の動輪がお目見えした。自転車のペダルをこぐと巨大な動輪が回転する装置も開発し、鉄道マニアをはじめ広く注目を集めそうだ。4月下旬からの一般公開でお披露目される。

愛岐トンネル群保存再生委

設置したのは春日井市のNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」。メンバーは定年退職した「おじさん」たち。22日には関係者を招いての除幕式があるため、週3日、動輪のさびを落として塗装したり、れんがで周囲を整備したりする作業に追われている。

C57の動輪は直径1・75m、重さ約3t。旧中央線を走ったD51の動輪（直径1・4m）より一回り大きい。車軸付近に残る刻印「C57191」から、約200両製造されたC57の191号機で、九州各地を走った1947（昭和22）年製とわかった。

あま市の所有者から有償で譲り受け、設置には地元ライオンズクラブから資金提供を受けた。

5号トンネル近くに設置されたC57の動輪。自転車をこぐと回る＝春日井市

愛知県側に整備した片道1・7kmの散策路には、重

厚なれんが造りのトンネルが4基残っており、5号トンネル近くを展示場所に選んだ。動輪は1月、県境から70トクレーンでつり上げて搬入。地面に並べた板と鉄パイプのコロを手作業でずらしながら、運搬台を動力で引っ張るため、長さ333mの6号トンネルを通り過ぎるのに5時間。搬入から設置まで丸3日かかったという。

自転車による駆動装置は地元の中部大学と小牧市の企業の協力で開発した。一般公開では子ども優先でペダルをこいでもらい、動輪の回転数をカウント。1日最大240回転ほど進む想定で、旧中央線の名古屋―東京間のどこまで進んだかもグラフで示す計画だ。

愛岐トンネル群保存再生委員会は昨年、市民らの募金で、4基のトンネルを含む愛知県側の土地を買収し、岐阜県側の整備も進めようとしている。事務局長の村上真善さん(62)は「C57の動輪展示は少なく、動かせる形での展示は全国初。貴重な近代化遺産であるトンネル群を、より広く知ってほしい」と話している。

(松下和彦)